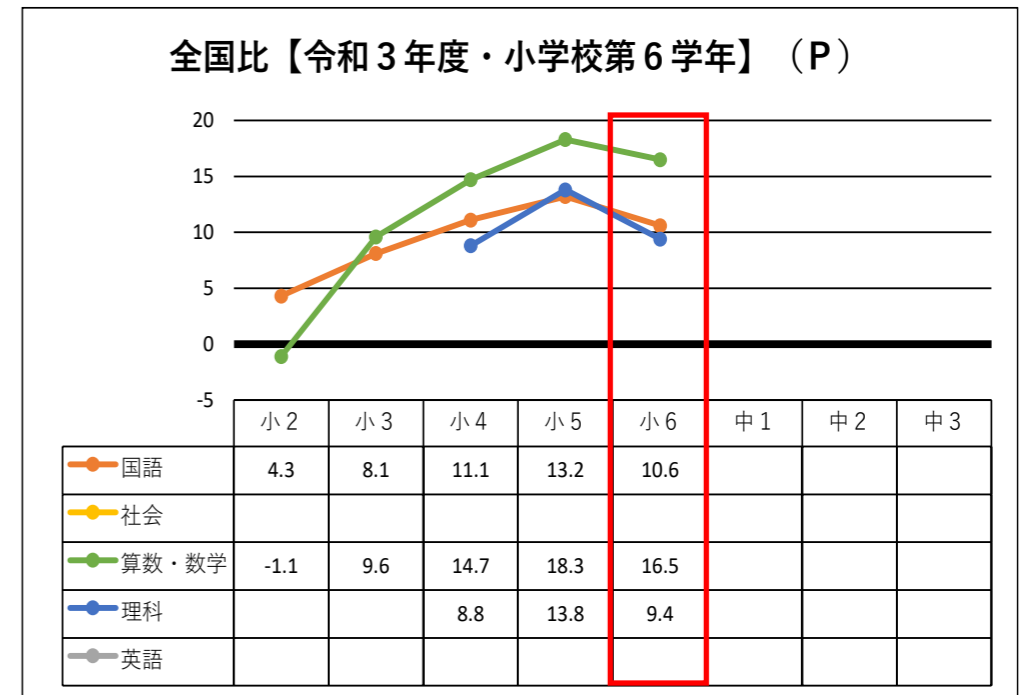
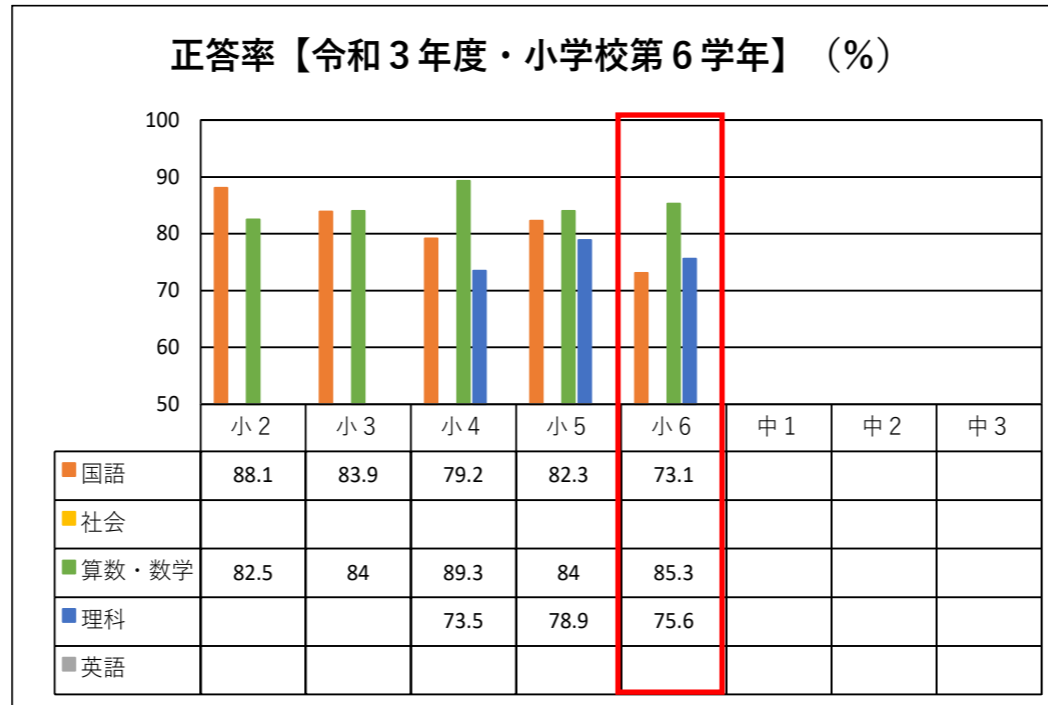
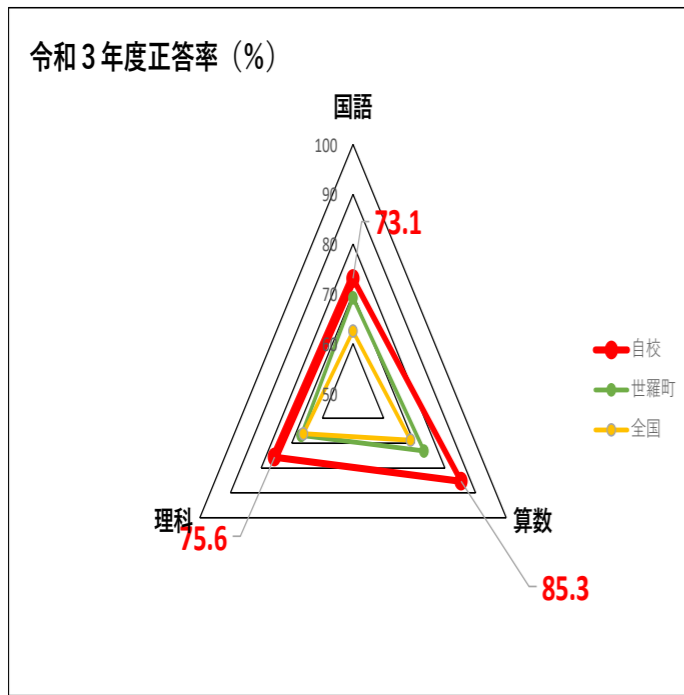


令和3年度標準学力調査 指導方法等の改善計画【せらにし小学校 第6学年】



教科	正答率 (%) 【全国比 (P)】	課題となる 観点	問題番号・出題のねらい ＜学習指導要領＞	自校正答率 【全国比】	児童の誤答の傾向と分析 (○)、教育指導上の要因分析 (●)	課題改善のための＜指導場面 (指導時期)＞と具体的な取組	目標値	検証値 【4月調査比】
国語	教科全体	73.1 【+10.5】	思考・判断・表現 5 (1) 叙述を基に文章の内容を捉えている。＜小学校5・6年思判表C (1) ア＞	46.25 【-3.0P】	○形式段落ごとの内容理解や段落相互の関係を捉えることができず、叙述の一部分の言葉から判断して解答している。また、叙述に書かれている内容と選択肢の内容を照合する際にも、断片的な言葉から判断しており、文章の内容を正確に把握することができていない傾向にある。 ●文章を読む際に、書き出しの言葉や文末表現等、問題解決の糸口となる短い言葉に着目させ過ぎたことで、文章全体に意識が向いておらず、その結果、文章を端的な言葉で理解したつもりになってしまっていたことが原因として考えられる。	＜説明的な文章の授業 (7・11・1月)＞ 情報と情報との関係を理解させる等、単元目標の達成だけでなく、文章に書かれていることを理解させるために、形式段落ごとにどんな内容が書かれているのかまとめさせたり、授業始まりに毎回音読を行ってから内容の理解に入ったりするなど、文章の内容を何度も読み直すことで、言葉だけではなく、文章全体に目を向けさせる。	正答率 90%	67% 【+20.75P】
	知識・技能	66.2 【+2】						
	思考・判断・表現	76.9 【+15.2】						
	主体的に学習に取り組む態度	75.4 【+17.8】						
算数	教科全体	85.3 【+16.5】	思考・判断・表現 19 (2) 示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述している。＜小学校5年B (3) イ (ア)＞	30.8 【+11.5P】	○考え方を説明する問題において、どのような順番で文章を書けば良いのか、また、どのような言葉や式を使えば自分の考えを表すことができるのか整理することに時間が掛かったり、考えられなかった児童が多くいる傾向がみられる。 ●自分の考えを他者と共有する際に、相手に分かりやすく伝えるための方策として、言葉や式、図を使わせているが、決まった形のものを書かせない児童も多く、自分なりの考えをその場で試行錯誤しながら考える機会が授業の中で少なかったことが原因として考えられる。	＜円の面積 (9月)＞ 円の面積の求め方を考える場面では、なぜそのように考えることができるのか理由を考えると共に、相手に自分の考えが伝わるように図や言葉、式を効果的に使い表現できるよう取り組ませる。また、円弧を含む複雑な形の面積を求める際にも、順序立てて考えを整理し、図や言葉、式を基に、自分の考えが確実に相手に伝わるように説明を考えさせる授業を設定する。	正答率 90%	83.3% 【+52.5P】
	知識・技能	88.6 【+13.8】						
	思考・判断・表現	79.0 【+21.7】						
	主体的に学習に取り組む態度	74.4 【+22.1】						
理科	教科全体	75.6 【+9.4】	知識・技能 8 (2) 水溶液は均一になることを理解している。＜小学校5年A (1) ア (イ)＞	7.7% 【-14.0P】	○児童は理科の実験でも普段の生活の中でも、物が徐々に沈みながら溶けていく様子を見る機会や場面が多くある。授業で学習したとしても、「水溶液は下の方が濃い」という誤った認識をそのまま持ち続けてしまう傾向にある。 ●水溶液の均一性の理解と定着には、「重さのある粒子は下に落ちていく」という児童の素朴概念は認めつつも、完全に溶かした水溶液中ではそれが成り立たないことを指導者として捉えさせられていない。	＜水よう液の性質 (9月)＞ 「1週間経過後でも食塩水の濃さは変わらないこと」、「食塩の粒は均一に散らばったままであること」という水溶液の均一性の概念を実験を通して、おさえる。また、動画を見させる等、児童の印象に残りやすい工夫をする。	正答率 50%	86% 【+78.3P】
	知識・技能	80.3 【+10.5】						
	思考・判断・表現	70.3 【+8.3】						
	主体的に学習に取り組む態度	66.2 【+16.2】						